

夜間学校ニュース

1989年 9月 1日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

関東大震災から六十六年

異質を常識とする

感性を！

みんなで つくろう
みんなの 会館

三人よれば 何とかの 知恵

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

台風のおかげかどうか知らないが、なんとなく秋のおとづけが早いという感じがする。もっとも、涼しくなったのはいいが、どうも雨にたたられそうなのが気になるが……。

さて、今日は九月一日、今から六十六年前の午前十一時五八分四四秒に関東で大震災がおこった。いうところの、関東大震災だ。

死者は九万一千三百四十人、全壊焼失四六万四九。九戸に達したという。

天災とはいえ、いたましいできごとではある。だが、もっといたましく、忘れられてはならないことは、震災後の混乱の中で、

多くの朝鮮人や社会主義者、労働組合の活動家らが、日常の差別意識とデマにもとづいて、普通の日本人や軍

人たちによって殺されたということだ。

これまでの研究で、デマは、軍隊、警察によって積極的に流されたものである。ところが明らかにされている。

おろかなことは繰り返さず、おろかならぬ。

今、ベトナムや中国は中

国からの難民が日本へ押しかけている。また、韓国、フィリピン、バングラ

デッシュなどから労働者があふれてきている。言葉や文化の違いが、と

仲間の死

本籍不詳、住所自称住之

江区粉浜西1-40、氏名自

称京極正明、年齢56歳位の

男、身長165センチ、ヤセ型、

着衣ベージュ色ポロシャツ、

赤色ハイネックセーター、赤色腹巻、腰バンド、青色作業スボン、柄パンツ、白色靴下、遺留金目なし

右の者は、昭和61年9月15日午後11時15分頃、花園北1-15-19花園医院北側敷地内にて発見されたもので、同日午後11時（推定）、同所において脳振盪のため死亡したものと思われる。

前回の報告

あくどい
飯場の種はつぎす

今年の天候はどう考えても不順です。八月の終わりになるのに、もう台風が何回も日本に上陸しています。それも普通なら接近するはずのない東日本や北海道にやってくる始末です。夏に台風が多発、日本に接近してくるのは太平洋高気圧が弱いためとか。この調子では冬の見通しも不透明になるのでは……

「いや、ひどい目に会ったわ。盆明けから一〇日契約で仕事に行ったんやけどな」

「どうしたんや、どこの飯場や」

「堺の鳳よりまだむこうや。泉北の方や。天王寺からJRにのって乗り換えで、それからバスに三〇分程乗らなあかんねん。ややこしいな」

「仕事は何や」

「草薨やいわれたけど、大きいのんばっかりで、あれやったら伐採や。川の近くでやってたんやけど蜂の巣があつてな、それで肩のあたりを刺されたんや、三日前のことや」

「それでどうした」

「あんまり痛いんで、きのう、きょうと休んでな、センターの病院へ行って診てもらった、やっと落ち着いたけど」

「それで問題はなんや、飯場の親父にはちゃんとと言うたんか」

「あんまり痛いんで、そのまま釜に帰ってきてな、金もないし、きょう金のこと電話したんや」

「だいたい、何日くらい働いたんや」

「一〇日契約で、これでも五日は仕事したで」

「電話ではむこうはどう言うてた」

「蜂に刺されたくらいで、と無茶苦茶や、一万円だけ出す、あと残りは一万四千元で、それは来月の二〇一日に取りに来いや」

「ちょっと待ってくれ、単価はいくらや」

「単価は一万五百円で、飯代は一日二千七百円や」

「飯代はかなり高いな、諸式はどうなってるんや」

「諸式はなしや、自動販売機があるから、それで用は足せるねん」

「借金はせんかったんか」

「はじめに四千元、途中で二千元借りたから、全部で六千元になる」

「入り飯は」

「それはなしや」

「そうすると、単価が一万五百円やから、五日で五万二千五百円や、あと飯代が六日分で一六千二百円、それに借金が六千円やな」

「一万円も勘定にいれなあかんで」

「差し引き、まだ二万二百円は残ってるで」

「それが、あと一万四千円しかないというのはおかしいな」

「それも九月の二〇日まで待てというのはべらぼうや」

「一ヶ月もあとになったらだいたい忘れてしもてるで」

「なんぼなんでも、一〇日契約やったら満期日には払ってもらわんとな」

「それで、誰かに相談したんか」

「業者のことをセンターにきいたんやけど、あんたようあんなところへ行ったなあ、あそこはうちに登録してへん業者や、と言うてた」

「それは一体どこや」

「産業の産に興行の興で産興、いうんや」

「センターでクルマは見るな」

「手配師は釜におるねん」

「それやったら、手配師はなんか言うてへんのか」

「手配師に言うたら、黙っとけ言うだけや、それで全然メンドウは見てくれんのか」

「組合に言うたらええわ、組合やったら、センターが電話しても金送ってこんとこでも送ってくることもあるしな」

「まあ、飯場と現金を比べたら飯場の方があくどいな。現金でもデタラメなことあるけど、仕事の内容が違うとか現場が違うとかいふのはあるけど、一日だけやと思うから少々のことならみんな辛抱するわな、飯場の場合はそうもいかんからな」

「この業者はセンターでクルマを見るけど、あんまり人は乗ってないな、やっぱりみんな敬遠してるのかな」

「そんなんで手配師が仲に入るとるんやな」

「けっこう、こういう飯場はあるのんと違うか」

「賃金の精算をあいまいにしたり、支払いを伸ばしたりするのは、常套手段やな」

「飯代とか諸式でぼったくるのもようあるで」

「結局、めんどくさいと思うたら、むこうの思う壺やな、きちんきちんと請求するもんは請求するということとをせんと、業者の方も甘いもんやとますますあくどいことを続けよるで、個人の問題がすぐ全体の問題に繋がるな」